



母校の活躍を誇りに思う

同窓会会長 長谷川 孝



今年度は一月に母校のラグビー部が花園での全国大会において、準優勝するという感動的な一年の始まりでした。私は三月の同窓会入会式において第六十期生の皆さんへ次のようなメッセージを送りました。「皆さんの高校生活は二年続けてのオンライン授業が取り入れられました。それから修学旅行、文化祭、体育祭、各種大会の中止や規模を縮小しての開催など教育環境が大きく変わりました。学校に通えなかった時に何を思いましたか。自分と向き合い将来のこと、仲間や家族の大切さを感じたことと思います。ところで、一月に行われたラグビー大会においてラグビー部は強豪校を次々と破り準優勝をしました。主将がケガで出場できないピンチをチーム

が一つになりチャンスに変えました。これからの人生において大きな壁にぶつかった時にこのことを思い出してください」以下省略。

そして今年の夏、今度は野球部が三十七年ぶり二度目の甲子園大会に出場しました。一回戦は開会式直後の日大三島戦、二回戦は前年度優勝校の智辯和歌山戦に勝つという大活躍でした。

また、加えてそれぞれの運動部や文化部の全国大会の活躍もありました。これらのことは全国の同窓生に夢と感動を与えてくれました。心より感謝いたします。現在のコロナ禍の中でこれらのような立派な成績を取めることができたのは、校長先生を始め教職員の皆様が魅力ある学校づくりを推進している努力の賜物だと思えます。改めて皆様に感謝と敬意を表します。そして、私たち同窓生は、これからも母校の発展のため力を合わせて応援することを誓います。

発行者
國學院大學
栃木高等学校
同窓会
(〒328-8588)
栃木市平井町608番地
電話0282-22-5511

第45号

國學院栃木の力と絆

学校長 青木 一男



このたび本校野球部は、第一〇四回全国高等学校野球選手権大会に出場、実に三十七年ぶり二度目の夏の甲子園出場でした。初戦は開幕戦という緊張する試合でしたが、自分たちの持ち味を活かして勝利、続く二回戦では、昨年度覇者の智辯和歌山高校を相手に一歩も引くことなく堂々とした戦いぶりで撃破しました。次の三回戦で惜しくも敗れましたが、全国ベスト16は立派な結果であると思えます。全員が一つとなり、最後まで諦めずひたむきに全力で戦う選手たちの姿に、多くの方々から「感動した」「元気をもらった」などの言葉が届きました。今大会では、特に野球部OBの方々はもとより、多くの同窓生の方々から多大なるご支援、ご声援をいただき、

本来にありがとうございました。心より厚く御礼申し上げます。ところで、今回、忘れてならないのは「皆が一つになって頑張る」ことの素晴らしさです。それは、野球部全員が一つになって戦っていたことはもちろんですが、在校生そして同窓生も一つになって懸命に頑張っていたことです。何よりも車中二泊というハードなスケジュールの中、多くの生徒たちが炎天下のもと甲子園で応援してくれました。吹奏楽部、応援部も県大会から、暑い中必死になって楽器を演奏、そしてチアリーディング、体力的にも大変だったと思います。吹奏楽部においては何人もOBが毎回、甲子園に駆けつけ一緒に演奏してくれましたが、OBと言えば、野球部OBを始めとして國栃を応援しなくては来ませんでした。本校は教師と生徒の絆が強いとよく言われますが、まさに「オー

ル國栃」です。そして、応援の様子子は、全国的に話題になり、高野連の会長様から「選手と応援が一体となっている素晴らしい試合である」とお褒めの言葉をいただくほどでした。ここに母校愛の強さを基盤とした生徒同士、教員と生徒、先輩と後輩など、それぞれの「絆の強さ」が見られます。これこそが、國學院栃木が六十年以上に渡って培ってきた大きな特長であり、多くの同窓生の皆さんが本校に親しみをもち続けてくれる理由の一つなのでしょう。

さて、令和四年という年は、一月のラグビー部全国大会準優勝という快挙から始まったのです。チームは、高校日本代表候補が一人もいないというように突出した選手がいらない中、初戦、主将が脳震盪で二回戦以後、出場できないというハンデまで背負いましたが、逆に主将のためにと結束、「皆が一つになって頑張る」ことを体現していたのです。そのラグビー部の戦いは、本校生徒たちに誇りを与えてくれたと共に「やればできる」という自信をも与えてくれました。そして、この事実も多くの生徒、そして野球部にも影響を及ぼしたのかもしれませんが、このように生徒同士が互いに影響し合いながら成長していくことは、教育の一つの理想であり、本校教育の目指すところなのです。

話は戻りますが、今までコロナ禍で様々な不安や窮屈さを抱えながら生活することも多かった中で、皆が一つになって心を熱くする機会が持てたことは本当に素晴らしいことであると強く感じました。生徒一人ひとりが大きなエネルギーを持っていて、そのエネルギー、「熱い思い」をこれからも育てていく学校でありたいと思います。

令和3年度同窓会一般会計収支決算

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増△減額, 備考. Includes sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増△減額, 備考. Continuation of financial statements for 令和3年度.

総収入額 19,370,481
総支出額 13,195,041
差引残高 6,175,440

令和4年度同窓会一般会計収支予算(案)

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増△減額, 備考. Budget plan for 令和4年度.

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増△減額, 備考. Continuation of budget plan for 令和4年度.

令和四年度 同窓会総会(幹事会)

令和四年度の総会は、一期生から六十期生の幹事が出席、七月九日(土)母校第一会議室で開催された。議事は昨年度の事業報告、決算報告および会計監査報告がなされ、続いて今年度の事業計画案、収支予算案、役員改選案、同窓会設立六十周年記念事業案について審議され、承認された。最後に三十期生について、また今後において二十八期生、二十九期生が集いの会を開催するための予算が計上されているとの報告があり、会は滞りなく終了した。



令和4年度同窓会本部役員・事務局

- List of officers and staff: 相談役 川福 基之 (理事長), 名誉会長 青木 一男 (校長), 顧問 飯村友季子 (教頭) 實島 範朗 (教頭), 会長 長谷川 孝 (9期), 副会長 増山 一夫 (5期) 佐藤 和男 (5期) 柏崎 和己 (7期) 荒川 浩幸 (21期) 北井 達也 (24期) 中村 亜紀 (25期) 海老沼信子 (31期), 会計監査 加藤 春美 (7期) 山田 和美 (25期) 山中日富美 (22期), 総務 吉田 和夫 (5期) 大竹 幾子 (5期) 神島 国治 (7期) 神島 馨 (9期) 福島 洋二 (15期) 福島 正浩 (16期) 片岡 弘美 (16期) 川島 正光 (17期) 高橋 俊一 (17期) 藪下 和弘 (17期) 若林 弘美 (17期) 渡邊 俊夫 (18期) 鎌倉 博幸 (19期) 保戸山陽一 (19期) 岩下 浩之 (21期) 斎藤 健 (21期) 増淵 宏和 (22期) 飯沼 邦章 (24期) 岡部 秀幸 (26期) 須田 尚男 (28期) 神山 拓之 (29期) 漆原 康史 (31期), 事務局主任 横地 夏彦 (24期) 高山 洋太 (46期) 木村 圭佑 (41期) 高山 航貴 (54期) 塩谷 隼冬 (50期)

※は新任者

令和三年度 退職教職員

- 青 佐 筒 飯 島
木 藤 井 泉 田
大 紘 健 健 幸 利
地 庸 二 郎 介 子

お世話になりました、ありがとうございます。

(敬称略)

同窓会設立六十周年 記念事業の延期について

同窓生の皆様には日頃から同窓会活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、記念事業についてですが、これまでの経緯として令和二年十二月に第一回の準備委員会から昨年の十二月までに計八回の会合を重ねそれぞれの部会ごとに活動の方向性が出来上がりました。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大が二年以上も続いている中でありますので、二月七日に役員会を開き、同窓会設立六十周年記念事業について協議をいたしました。その結果、安全と安心が確保されてから記念事業を開催しようということになり、令和四年十月に計画していましたが同窓会設立六十周年記念事業を延期することに決定いたしました。尚、今後の活動については感染防止を図りながら来年には開催できるように準備いたします。

同窓会設立六十周年記念事業
準備委員会
委員長 長谷川 孝

卒業三十周年集いの会

同窓会では高校を卒業して三十年経ちますと「卒業三十周年集いの会」という学年の全体会を開催します。今年度の該当期は三十期生です。現在、開催の有無について各クラス幹事に了承を得ている段階ですが、幹事代表数名と検討した結果、このコロナ禍での開催は難しいと判断し、残念ではありますが今年度の開催は見送らせていただきます。会員の皆様には何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

最後に新型コロナウイルスの一日も早い収束と、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

三十期幹事長 井澤 徹
(三年四組)

クラス会



令和4年4月17日
商3-3 (15期・S52卒)

- 《会費納入者芳名》
〔令和三年度分〕
氏名上の数字は卒業期(一)内は旧姓
- 1 山口勝 四万円
 - 2 白井キミ子(厚木) 20 佐藤有里子 二万円
 - 3 心花佑子 22 飯塚英子
 - 4 岩村迪世(田村) 22 上沢加代子(中野)
 - 5 長竹欽悟 22 富田泰夫
 - 6 武政照雄 25 安達賢
 - 7 石川千恵子(飯塚) 26 内田めぐみ(湯村)
 - 8 寺内敏子 26 高花義浩
 - 9 鈴木恵美子 26 松本博
 - 10 吉岡ふみ江(鳥島) 26 横地修
 - 11 猿山保子 27 岡田渉
 - 12 河村恵子 27 花浦ひろみ(緑川)
 - 13 岩上好子(栃木) 28 須田尚男
 - 14 樋山博江(荒川) 28 小野真
 - 15 中村留美子(三關) 28 矢島司
 - 16 植原雅章 28 山口麗子
 - 17 渡部文義 28 島村圭一
 - 18 高見沢マリ 28 渡邊春司
 - 19 渡邊八州郎
 - 20 森田光世 17 萩原恵美子(福富) 18 平栗信也 18 藤原有里子
 - 21 1 鈴木暁子(加山) 23 山本賢
 - 22 3 野沢氏子(青柳) 25 山根伸行
 - 23 5 大塚光男 25 内藤雅樹
 - 24 8 高橋秀子(青木) 25 中島正高
 - 25 5 齊藤隆裕 26 大豆生田元子
 - 26 9 今井不夫(和賀井) 26 田邊日出幸
 - 27 9 岡田清 26 福井洋介
 - 28 9 小坂由子(大森) 27 岩瀬裕彦
 - 29 11 宇賀孝夫 27 植野葉子
 - 30 11 澤田幸雄 28 白井和徳
 - 31 13 小原澤公康 28 小野直美(小曾戸)
 - 32 13 鈴木貞舜 28 吉田恵(飯田)
 - 33 13 吉田好伸
 - 34 16 瓦井恵子(日笠)
 - 35 16 増田和浩
 - 36 17 山田朱実
 - 37 18 大貫幸子(北原)
 - 38 5 照内サタ子(小藤) 21 田中富太郎
 - 39 8 千円 21 富田周利
 - 40 22 門井明美(小林) 22 阿久津豊
 - 41 3 千円 22 比護純子(関塚)
 - 42 15 梅沢静子 22 布施直人
 - 43 2 千円 23 村田浩子(桐敷)
 - 44 1 千円 23 山田浩子
 - 45 23 村田浩子
 - 46 23 山田浩子
 - 47 23 山田浩子
 - 48 23 山田浩子
 - 49 23 山田浩子
 - 50 23 山田浩子
 - 51 23 山田浩子
 - 52 23 山田浩子
 - 53 23 山田浩子
 - 54 23 山田浩子
 - 55 23 山田浩子
 - 56 23 山田浩子
 - 57 23 山田浩子
 - 58 23 山田浩子
 - 59 23 山田浩子
 - 60 23 山田浩子

会員だより

このたび九期生の神島馨さんが日本気球連盟賞を受賞されました。長年にわたり熱気球の活動に尽力された功績が認められたのです。また三十一期生の漆原康史さんは栃木市合戦場郵便局長として地域の活性化に尽力され、また市内の小学校や母校において手紙の書き方の出前授業で活躍しています。お一人には原稿をお寄せいただきませう。

熱気球に懸ける



九期生 神島 馨さん

私は栃木市在住で来年古希を迎える節目の年になります。現在仕事は現役で『オリジナルショップ カミシマ』を営んでおります。またお手伝いのつもりではじめ

た熱気球でしたが、パイロットの免許を取りインストラクターとして現在に至ります。その関係もあり栃木市の気球の管理と運営を一任され『栃木市熱気球クラブ』の代表をしております。

活動拠点は主に栃木市のPRで『ふるさと納税』の返礼品として熱気球搭乗フライトや毎月第三日曜日を『熱気球の日』として、一般の方を熱気球に搭乗して頂く活動や、毎年行われている『栃木市・渡良瀬バルーンレース』の実行委員会の委員長を仰せつかり、このコロナ禍の中も無事に開催し、栃木市の一大イベントになっており

ます。

また、事前告知事業として各地での係留や『熱気球教室』を各小學校に出向き理科の授業の一環として活動しています。

昨年その功績が認められ日本航空協会から『FAIエアースポーツメダル賞』を頂きました。(栃木県内では四人目だそうです)

十二月に『栃木市・渡良瀬バルーンレース2022』が開催されます。渡良瀬遊水地藤岡運動公園内十二月十六・十七・十八日です。お時間が取れましたら是非ご来場下さい。特に十七日の土曜日の夜に行われるバルーンリレーショーは必見です！(二十機程の気球が地上で立ち上がり、音楽と共にリズムに合わせバーナーを吹き巨大なぼんぼりの様な幻想を生で見る事が出来ます)

また、他に活動として『栃木警察署管内少年指導委員』を、十八年程やり来年は定年を迎えます。會長になり三年の月日が経ちますが、これもまたコロナ禍により充分

な活動が出来ぬまま引退となりました。内容は少年院や刑務所・裁判所・防衛庁や警視庁等の視察等で、一般の方が入館出来ない所に行けたりして大変良い経験をさせて頂きました。(令和元年十一月に県から表彰状を頂きました)

わたらせ熱気球day
 [毎月第三日曜日は係留飛行の日]
予約制
搭乗体験しませんか!!
 開催毎月第三日曜日
 申込：毎月1日から栃木市HP
 電話：020-3245-4386 (検索)

『継続は力なり』私の好きな言葉です。何事も長く続ける事が大事で決して諦めないでいると必ず良い方向に導かれます。名譽はお金では買えないものですと自負致しております。

最後に國栃を卒業し半世紀が経ちました。色々な事がありました。が今も國栃の仲間とずっと一緒にいます。これからも後輩の皆さんの益々のご活躍と國學院栃木高校のご発展を祈念いたしまして、御挨拶とさせて頂きます。それでは皆さんお体を大切に自愛下さい。

高校を卒業して今年で三十年。入学当時は正直なところ第一志望ではなかった國栃でしたが、今思えば、國栃っていい学校だなと感じみと感じています。



今や我が家は國栃ファミリー

三十一期生 漆原 康史さん

任送りは今も伝統として残っていて、同級生と会うとそんな話で盛り上がり、あの時代を懐かしむこともあります。

「國栃あるある」ですが、夫婦、親子、兄弟で國栃の卒業生という方が意外と多いことに國栃愛を感じます。私は母一人息子と、数少ない三世代國栃という、國栃ファミリーです。今後、我が家のようなご家族が増えていき、國栃の輪が広がることを願っております。

みなさんも気づかされることがあると思いますが、卒業して、仕事の関係等や地域コミュニティ等で、國栃の卒業生はみんなよくしてくれるところが嬉しいですね。卒業しても恩師が長く國栃に在籍

していることも安心できます。私は、栃木市の合戦場郵便局長として、地元合戦場の知名度を全国区にする活動をしています。二〇一四年に局前に設置した金のポストは全国区になり、郵便局向かいの栃木市の偉人である日立製作所創業者小平浪平翁の個人顕彰家としても冊子作製や講演などの活動をしています。

國栃のお手伝いとして、國栃中で手紙の書き方の出前授業をさせていただいており、今年で十年目を迎え、歴史と伝統を重んじる國學院にふさわしいお手伝いだと自負しております。郵便局の窓口で寅年の卒業生とその話で盛り上がったこともあり。私の出前授業が國栃に少しでも恩返しができるれば幸いです。

一層國栃の輪が広がり、卒業生の誇れる國栃が益々繁栄することをお祈りします。

祝 甲子園出場

野球部OB 球友会会長 岩下 浩之さん (二十一期生)

第一〇四回全国高等学校野球選手権大会出場おめでとうございます。皆様の多大なるご厚志と温かいご声援を賜り誠にありがとうございます。初出場より三十七年間の時間を要しましたが甲子園球場にて校歌を歌えたことは野球部の歴史が変わった瞬間でした。卒

業生としてOBとしてこの場面に立ち会えたことは一生忘れることのない大きな感動を味わいました。心より感謝いたします。新チームは『文武両道』をテーマに甲子園ベスト4を目指し、さらに練習に励み栄冠を勝ち取ってください。

母校のようす

運動部

◇ラグビー部

第一〇一回全国高等学校

ラグビーフットボール大会

準優勝

一九八八年の創部以来三十四年目で初の決勝進出。

二回戦本校64対3松山聖陵

三回戦本校27対7流経柏

準々決勝本校17対7長崎北陽台

準決勝本校21対10桐蔭学園

決勝本校5対36東海大大阪仰星



ラグビー七人制 全国三位

第九回全国高等学校七人制ラグビーフットボール大会は七月十六〜十八日に菅平高原サニアパークで行われ、予選リーグ二勝 カップトーナメント一回戦は光泉カトリック高(滋賀)に

◇野球部

第一〇四回全国高等学校

野球選手権栃木大会 優勝

一回戦本校16対0さくら清修

二回戦本校7対2宇北

三回戦本校2対1栃木工

準々決勝本校7対0足大付

準決勝本校6対5作新学院

決勝本校8対4宇都宮南

一九八五年の第六十七回大会以来三十七年ぶり二度目の夏の甲子園出場。



栃木大会優勝

◇甲子園大会

一回戦本校10対3日大三島

二回戦本校5対3智辯和歌山

三回戦本校0対4九州学院



◇男子ハンドボール部

一回戦は、近江兄弟社高(滋賀)に20対16で勝ち上がるも、

二回戦は、小林秀峰高(宮崎)に26対36となり、二回戦敗退となった。

◇柔道部

女子団体戦は、生光学園高(徳島)と対戦し、0対3で初戦敗退となった。男子個人戦100kg超級藤井達也選手は一回戦は技あり、二回戦は一本勝ち、三回戦は合わせ技で敗れ、ベスト16となった。女子個人戦、78kg級酒井結海選手と63kg級青田れもん選手はともに二回戦敗退となった。

◇なぎなた部

坪山遥音選手はベスト16、団体試合、演技試合はともに予選リーグ敗退。

◇体操競技部

個人戦に出場した平澤萌選手、新井楓花選手ともに予選敗退。

文化部

◇囲碁将棋部

第四十六回文部科学大臣杯

全国高校囲碁選手権大会

個人 女子 準優勝

黒川智美 一年



今大会で準優勝という結果を収めることができ、嬉しく思います。久しぶりの大会で緊張しましたが、自分の力を出し切り楽しむことができました。また、強い方と対局ができ貴重な経験になりました。私の実力はまだまだ足りておらず改善点も多くあるので、これからも部活動や自主練習に集中して取り組み、さらにレベルアップさせたいです。また部活動の仲間に貢献し、ともに団体戦に出場できるように頑張りたいと思います。

◇箏曲部

令和四年七月三十一日(日)から開催された第四十六回全国高等学校総合文化祭「とうきょう文2022」に出場した。演奏曲の『秩父路』は、箏曲部が昭和六十年の全国総合文化祭に出場した際に宮田耕八朗先生に作曲していただいたもので、以

来、母校箏曲部

で脈々と受け継

がれる伝統曲と

なっている。出

場した生徒たち

は、「入部以来、

新型コロナウイルス

で活動を制限さ

れた期間が多

かったが、全国

の舞台で演奏できる

機会なのでできる限り良い演奏

をしたい」と毎日懸命に練習し、

全員の息の合った素晴らしい演

奏を披露した。



◇書道部

八月七日(日)栃木商工会議所創立百三十年記念事業として、「鎮魂線香花火と世界平和祈願灯ろう流し」が開催された。そのイベントの一環として本校高等学校書道部が約百名の来場者を前に書道パフォーマンスを披露した。



特集 監督は語る

在校生、同窓生にとって各部活動の活躍は嬉しいことです。今年第一〇一回全国高等学校ラグビーフットボール大会において準優勝に導いた吉岡肇監督、並びに第一〇四回全国高等学校野球選手権大会に三十七年ぶり二度目の出場に導いた柄目直人監督の二人に部活動の指導について寄稿していただきました。

花園準優勝

ラグビー部部長・監督 吉岡 肇



第一〇一回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場してきました。全国から五十一代表が出場しました。優勝候補三校をAシードとし、本校はBシードの十校に選出され二回戦からの出場となりました。シード校にとって最も難しいと言われている十二月三十日の初戦は、一回戦で東北一位の古豪秋田工業を見事に破り、勢いに乗る四国一位の松山聖陵（愛媛県）との対戦となりました。本校は落ち着いた試合運びで相手をノートライに押さえ快勝しました。しかし、初戦の堅さからか、前半十分にキャプテンがタックルをした時に味方同士が激突

し、脳震盪の疑いと診断され、以降の試合に出場することができなくなっていました。キャプテンにとっては悪夢のような出来事であり、チームにとっても部員投票の結果、満票一致で選出された。絶対的キャプテンを失うことは、精神的支柱を失う事となりました。キャプテンが次戦以降の試合に出場できないということが発表されたその晩のミーティングは、二回戦を快勝して突破したにも拘わらず、まるで葬式のような中で号泣する者もいました。しかし、キャプテンはすぐに気持ち切り替え、ミーティングや練習から今まで以上に声を出して暗いムードを払拭してくれました。試合ではウォーターボーイ（給水係）としてベンチ入りし、チームを鼓舞し続けました。チームは「キャプテンを日本一



のキャプテンにする」を合い言葉に一丸となり、ここから快進撃を見せます。先頭に立って獅子奮迅の活躍をするのは、ミーティングで号泣したバイスキャプテン（副主将）でした。三回戦では六月の関東大会の決勝カード、ライバル流通経済大柏高校（Bシード・千葉県）を下し、十年ぶりのベスト8に進出しました。続く準々決勝では同じくBシードの長崎北陽台（長崎県）と対戦し、1トライを争う接戦を制し、本校及び本県の歴史を塗り替える初のベスト4に勝ち進みました。試合を決定づける値千金のビッグプレー（インターセプト）をした選手は、本校が花園に初出場した六期OBの息子でした。

勢いに乗る本校は準決勝で大会二連覇中の桐蔭学園（Aシード）と対戦し、鉄壁の防御で試合のペースを握り、桐蔭学園の大会三連覇を阻止しました。決勝戦の東海大仰星戦は、それまでとは違った決勝戦という独特のムードの中、今大会初めてリードを許す試合展開となり、トライゲッターの負傷退場も重なり、試合を覆す余力はありませんでした。キャプテンのアクシデントがチームに結束を与え、快進撃の原動力になるという現象は、見事に「ピンチをチャンスに変えた」と言えます。しかし、決勝戦のこの場面では「キャプテンの統率力があれば」という思いが頭をよぎりました。結局最後は力尽き、優勝を逃しました。チームとしての経験値の差を痛感しました。優勝した東海大大阪仰星高校は優勝校にふさわしい尊敬すべきチームでした。

今回選手たちは準優勝という快挙を成し遂げました。ベスト4のうち本校以外の三チームはAシード校で、高校日本代表候補を七、八人擁したチームでしたが、本校には一人もいません。特出した選手がいなくてもチームの快進撃は、多くのチームに勇気と夢を与えたと称賛されました。上位進出の要因としてはコーチングスタッフの充実が挙げられます。経験豊富なスクラムコーチ・トレーナー・ストレンジスコーチに加え、新たに近年加わった若い

最後に、間もなく六百人にとどこうかとしているラグビー部の卒業生はもとより、國學院栃木の同窓会の皆様の熱い応援が選手たちの背中を強く後押しして頂いたことは間違いありません。現地には大勢の栃木県からの応援団に会場頂きました。全国各地からも応援に駆けつけていただきました。パブリックビューイングが各地で行われたことも伺いました。大会終了後も学校や県庁、市役所で盛大に出迎えて頂きました。感動して涙をこらえることができません。誠に有り難うございました。今後ともラグビーを通じて「国栃」の名を全国に印象づけるとともに、次なる舞台で再び同窓会の皆さんに勇気と感動を与えられる様に努力精進いたします。「国栃」関係者全員に応援していただけるチームを目指して。



学 び

野球部監督 柄 目 直 人 (三十九期生)



【甲子園】高校野球は学校教育の場の一つであり、主役の現役高校生が何かを感じ、学びそして成長していく。そして社会貢献へ。つまり人材育成の場です。

結論、「甲子園は出場学校関係者にしか体感できない特別な教育を受けられる」だから出場すべきと確信させてもらう大会になりました。

選手たちと一緒に國學院栃木高校野球部全員で掲げた目標は『甲子園ベスト4』。しかし結果ベスト16。二勝一敗。目標達成はならず。たった二勝で終わった甲子園。でも三試合の中で我々國學院栃木は、一般的な日常ではなかなか体感できない経験をし、日に日に心身の成長を実感し、たくさんの方を学び、すぐに体現していく。生徒にそして大人に甲子園にしかない独特の波動で成長のチャンスを与える。甲子園の色・音・風・香り・熱：全てが先生。沢山の事を学ばせていただきました。

さて今回は、同窓会の皆様あてに部を代表して筆をとらせていただくことで、私自身、頭を整理



しながら、監督として、一教師として、卒業生としての面から甲子園で学ばせていただいたこと、また現在の國學院栃木高校野球部の活動の実態の一部をご紹介させていただくことで、皆様への日頃の感謝とさせて頂ければ幸いです。今回のキーワードは『準備・一体・進化』の三つとします。『準備』 コロナ禍の大会ということで感染対策を万全に行い感染者無しで戦いに向かえた事は組織として大変良かったこと。正直陽性者が出ては仕方ない日本の状況でしたが、日頃からの感染対策に対する学校としての意識の高さや教育の正しさ生徒の我慢強さなどが証明できた瞬間でもあったと思います。また試合においても、県大会優勝後すぐに、甲子園の開幕ゲームに合わせてチームを整えて

いこうという事で生徒たちと準備していました。平井主将が見事に開幕試合を引き当て選手全員が「よし」となりました。体のコンディションと同時に精神のコンディションもいい状態にできた。そして國學院栃木2022の野球スタイルをそのまま披露し日大三島高校に勝ち切ったのもチームでの準備力が当日の力を発揮することにつながったのは間違いありません。二回戦智辯和歌山戦に向けても七日間の準備期間をいただきましたので、心身・環境・道具・作戦・相手心理すべてにおいて準備万全で出来たことで試合を愉しむことができたし、すべてを「想定内」の中で展開を作っていた。そして勝利を手にした事で、選手たちとも喜びを共有できました。何事も質の高い準備が大切と学ばせていただきました。

【進化】地球が変化している以上、



「いきる」には我々も進化(対応)をしていかなければなりません。温暖化・コロナ・戦争…。遠い過去の常識は、これからも通用するのか?そんな思いにさえなりません。教育の現場も同様でICT教育やグループ授業・ブレゼン・探究学習・オンライン授業。つまり教育の場の一つである高校野球も進化していく事が高校生への正しい教育ではないかと思いつつ日々勉強しています。本校はラグビー部を筆頭に日本中の生徒が集まってくる学校へと進化を遂げています。たいへん残念ながら、高校野球の世界では未だに『県外選手』などという最低な言葉が使わ

れる。その素晴らしい波に選手たちは心乗せて、コロナ禍の我慢で蓄えた力を開放し存分に力を発揮したと解釈しています。もしあのアルプスの波がなかったとしたら、選手も上手く乗れなかったと思います。ただただ選手共々感謝申し上げます。

れたりします。その言葉に生徒達も悲しい思いをしています。文武両道の國學院栃木高校に惚れ・志高く・目指し・受験をクリアし・故郷を離れ・親元をはなれ、人生の大切な三年間を栃木県栃木市國學院栃木で学びたい、人生の勝負をかけた。そういう心をもった青年は、もはや日本の宝だと思います。青年たちこそ進化しチャレンジしている。チャレンジする志は現生徒達から学ばせてもらっています。素晴らしい生徒達です。今回二〇二二年夏の甲子園に出場させていただき様々な学びがありました。またいろいろと考えるきっかけもいただきました。これをすぐに活かし、生徒たちが素晴らしい人材となって未来に羽ばたいていってもらいたいと、私も一人の國學院栃木三十九期の卒業生として強く思いました。

最後になりましたが同窓会の皆様、本当にありがとうございました。野球部を代表して深く御礼申し上げます。栃木へ帰ってきて数日が経ちますが、私どもが知らないところで皆さまのお力が大きく働いたとお聞きしました。また日常の中でも生徒達、選手達が大変お世話になっているとお聞きしました。本当に感謝申し上げます。我々スタッフも國學院栃木高校の発展のために一教員として職務を遂行してまいります。

現生徒達が大きく未来へ羽ばたいていくことを願い、今後どうぞ國學院栃木高校野球部をよろしくお祈りします。

令和5年度 中学校・高等学校 生徒募集について

高 校

FOR YOUR FUTURE 未来を拓く

国柄チャレンジ (学力診断テスト) 10月23日(日) 場所/本校キャンパス・学園教育センター(栃木駅前)
入試の雰囲気を経験しながら、学力到達度を判定します。
【判定】①現在の学力(得点・順位等) ②本校の各コースへの合格可能性
【受験型】5教科型または3教科型選択 【受験料】無料

入試説明・相談会 ① 9月23日(金・祝) ② 10月15日(土) ③ 11月5日(土)
④ 11月13日(日) ⑤ 11月23日(水・祝)
⑥ 12月3日(土) ⑦ 12月11日(日)
時間/9:30~ ※② 10月15日(土) ③ 11月5日(土) 14:00~
場所/本校キャンパス ※⑥⑦は学園教育センター(栃木駅前)

入学試験 第1回 1月6日(金) 一般入試(単願・併願)
推薦入試(単願)
体育技能入試(単願)
第2回 1月7日(土) 一般入試(単願・併願)
第3回 1月28日(土) 一般入試(単願・併願)



中 学 校

Challenge! 可能性に挑戦

入試説明・相談会 ① 7月9日(土) ② 8月21日(日) ③ 9月3日(土)
④ 9月23日(金・祝) ⑤ 10月8日(土) ⑥ 10月29日(土)
⑦ 11月5日(土)
時間/10:00~
場所/本校キャンパス ※⑥は14:00~ 学園教育センター

入学試験 第1回 11月26日(土) 自己推薦入試(単願)
一般入試(単願・併願)
第2回 12月10日(土) 自己推薦入試(単願)
一般入試(単願・併願)
英語入試(単願・併願)
適性検査入試(単願・併願)
第3回 1月21日(土) 自己推薦入試(単願)
一般入試(単願・併願)

